

# 平成 28 年度 第 2 回三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時：平成 28 年 7 月 12 日（火）

13 時 30 分～17 時 00 分

場所：三重県松阪庁舎 3 階 33 会議室

## 1. 開 会

## 2. 主催者挨拶

## 3. 議 事

金剛川水系の流域概要について説明をし、次のような意見をいただいた。

- 主要洪水の水害被害要因（降雨と被害の関係）を分析していただきたい。
- 内水被害が多く発生していることについて、排水機場（ポンプ）の能力が足りていないこと等が要因ではないか。
- 資料に書かれている「治水安全度 1/2 未満」について、「にぶんのいちまん」と説明されていたが、「にみまんぶんのいち」が適切と思う。
- 下水道の事業認可区域における整備の進捗状況はどうか。
- 下水道の計画排水区域が整備された場合、排水される水量に併せて河川も整備していく必要がある。
- 内水被害が多く発生しているが、河川整備は十分であるという認識でよいか。
- 流域内の重要文化財として、宝塚古墳とその周辺から出土した埴輪群に関しても資料に掲載して欲しい。松阪市指定文化財マップ、埋蔵文化財地図等を参考にすること。
- 金剛川は伊勢神宮領の北の境界だった可能性もあり、歴史文化的に重要な河川である。下樋小川（したひのおがわ）と呼ばれ、古くは木樋が多くあり昭和年代（30 年代）にヒューム管に付け替えたという記録もあるため、下水道整備を行う松阪市にも確認すること。
- 河川の歴史については古代史も踏まえ整理いただきたい。
- 金剛川流域のイチイ、ビャクシンの生息状況について、再度確認いただきたい。
- 阪内川のオオサンショウウオの生息状況について、再度確認いただきたい。
- 愛宕川の下流域では干潮時に干潟が現れ水鳥（シギ・チドリ類）が集まり、猛禽類（ハヤブサ）の狩場となっている。また、愛宕川と金剛川河口のヨシ原は、ヨシゴイなどもかつて生息していた。これらの種も資料に追記していただきたい。
- 勢々川取水堰の灌漑時期が 4/27～5/1 と短いことについて再度確認いただきたい。
- 金剛川は水生生物があまり生息していない川という印象をもった。
- 金剛川汐止水門（河口付近）の湿地帯でハマボウの群生が確認された。

## 4. 閉 会